

令和7年度農作物病虫害発生予察注意報第2号

令和7年(2025年)8月6日
山口県病虫害防除所

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類
(クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメ等)

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 8月～10月

3 注意報発令の根拠

7月7日に水稻の斑点米カメムシ類の注意報(令和7年度農作物病虫害発生予察注意報第1号)を発令したが、引き続き発生が多い状況が続いている。

- (1) 県内3か所の予察灯における6月26日～7月25日の斑点米カメムシ類の誘殺数は8,310頭(平成1,929頭)であり、過去10年間と比較して最も多かった(表、図1、2)。
- (2) 1か月予報(7月31日福岡管区気象台発表)によると、向こう1か月は気温の高い状態が続き、降水量はほぼ平成並みの見込みで、斑点米カメムシ類の活動に好適な条件が続くとされている。

4 防除対策(薬剤防除)

- (1) 防除時期(液剤等)：穂揃期と穂揃期7日後
ただし、イネカメムシの発生が認められるほ場では、出穂期と出穂期7日後
- (2) 粒剤で防除を行う場合は、液剤より3～4日早く散布する。
- (3) 防除後、ほ場での発生状況を確認し、斑点米カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。
- (4) 防除薬剤は、山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水稻出穂期に多数のイネカメムシに吸汁されると、不稔穂が多発して大幅な減収につながる。特に、周辺のほ場より出穂期が早い、または遅いほ場では周りからイネカメムシが集まってくるため、発生に注意する。
- (2) 水稻出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水稻への移動を促し、加害を助長するので避ける。
- (3) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて薬剤防除を実施する。
- (4) 斑点米カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 粒剤は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、防除後の効果をよく確認する。
- (6) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守、ミツバチ被害軽減対策など安全で効果的な防除に努める。

(参考)用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日

穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日

表 予察灯における斑点米カメムシ類主要5種の誘殺数(6月26日～7月25日、県内3か所合計)

年度	大型種			小型種		合計
	クモヘリカメムシ	イネカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカシジカスミカメ	アカヒゲホソドリカスミカメ	
令和7年	111	289	68	7087	755	8310
平年	22	21	38	1586	262	1929

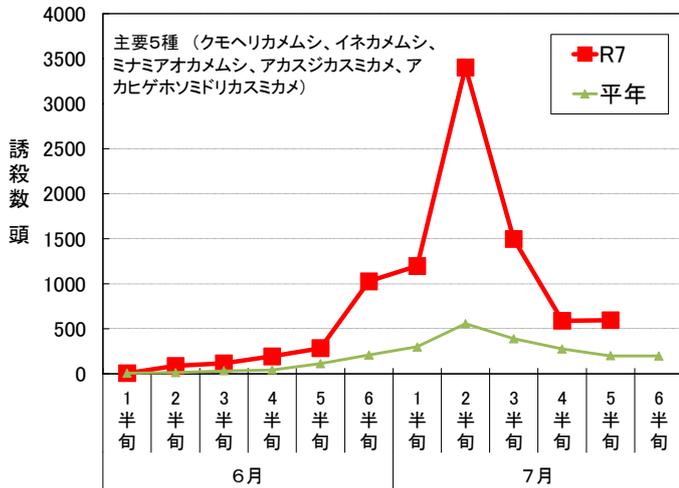


図1 予察灯における斑点米カメムシ類主要5種の誘殺数推移 (県内3か所合計)

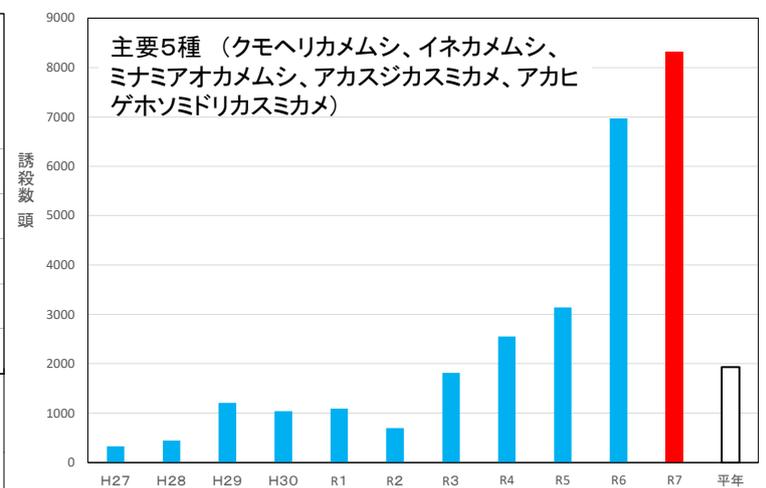


図2 予察灯における斑点米カメムシ類主要5種の誘殺数の年間比較 (6/26～7/25、県内3か所合計)



写真1 クモヘリカメムシ成虫 (体長 15～17mm)

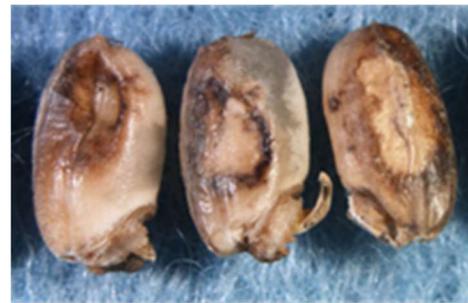


写真2 クモヘリカメムシによる被害粒 (斑点米)



写真3 イネカメムシ 成虫 (体長 16mm 程度)



写真4 イネカメムシによる被害粒 (斑点米)